



# センター NEWS

Wakayama  
International  
Exchange  
Center  
News

2020年3月発行

## 中南米海外移住者子弟受入事業で県人会子弟2名が来県！



中南米海外移住者子弟受入事業が始まったのは平成21年度からです。

延べ22名の子弟が和歌山県を訪問し、ホームステイをしながら、日本、そして和歌山の生活を体験しました。

彼らの中には、和歌山を体験した後、日本に留学したり、また昨年、和歌山県が実施しました「和歌山県人会世界大会」で来県し、ホームステイの家族や滞在中お世話になった方々と再会するなど、移住先諸国と和歌山県とのつながりは若い世代にも引き継がれています。  
(詳細は6ページ)

- P2~5 第2弾！ブラジル和歌山県人会創立65周年記念式典に出席して
- P6 ブラジル、アルゼンチンから県人会子弟がやってきた！  
グローバルセミナー
- P7 人権セミナー・日中交流奨学事業
- P8 和歌山県内の国際交流活動  
和歌山県庁国際課から
- P9 ! Hi Hai Hola こんにちは！
- P10~11 わかやまJICAボランティア応援団の活動から
- P12 WIXAS コーナー

URL:<http://www.wak-kokusai.jp>



## 第2弾！ ブラジル和歌山県人会創立65周年記念式典出席して

公益財団法人和歌山県国際交流協会 事務局長 出口 博之

### 4 ブラジル：サンパウロ訪問

#### (1) ブラジル和歌山県人会創立65周年記念式典

開会宣言、日伯両国国歌斉唱、先亡者に対する黙祷等に続いて、谷口ブラジル和歌山県人会会長の挨拶。その概要は以下のとおり。

『65年前に竹中氏と30名の同胞によって設立された県人会も、年月と共に変わってきた。社会で出世するためには2世以降ポルトガル語を優先的に使わざるを得ず、伝承されるべき日本語は家庭で使われるのみになった。1970年代からは、日本も復興により一流の国として尊敬されるようになり、われわれも日本人の子弟として誇らしい気持ちになった。しかし、一時は500家族を数えた県人会も現在219名の会員に減少している。今後の課題は、次世代の優秀な子弟を育成し県人会活動を引き継ぐこと、和歌山県民との交流を続けることである。十分意を尽くせないが、引き続き皆さんの協力をお願いしたい。』

いろいろと考えさせられるご挨拶である。在伯中、谷口会長とはさまざまなこととお話しさせて頂いたが、県人会に関しては、その存続・後継者育成ということに大部分の課題が帰結した。そのためには「日本語」を学ぶモチベーションをどうやって上げるか、日本文化の継承をどうするか、和歌山県人会への入会資格を広げるか否か等々、課題は山積である。

在サンパウロ総領事や和歌山県参事に続いて、当協会の榎畑理事長から65周年事業に対する祝意を述べた後、知事感謝状の贈呈や、サンパウロ市議会羽藤ジェオルジェ市議会議員より、北山参事と榎畑理事長に功労賞が授与された。また、理事長から谷口会長に記念品や激励金の贈呈もおこなわれた。



#### ブラジル和歌山県人会創立65周年 Associação Wakayama Kenjinkai do Bra



その後、和歌山県人ブラジル移民百周年記念誌発刊式があり、それぞれの記念行事閉会後は、ケーキカットと鏡開きがあり、そのあとは皆でテーブルを囲んだ「祝賀会」に移った。久しぶりに顔を合わす人達、来賓席にいろいろなお話しをしに来られる方々との情報交換など、皆さんの熱い思いをいろいろ聞かせて頂いた。尺八演奏、三味線による民謡演奏、役員も参加しての盆踊り（炭坑節）など、普段のしがらみを離れて、今日のこのイベントを心から楽しんでおられる様子が伺えた。

今回県人会に出席された方々は、暗い顔など微塵も見せず、それまでのご苦勞を屈託なく明るい笑いで包んでくれる。様々な分野で活躍されている日系和歌山県人には、エンジニア、会計士・弁護士、医師、政府関係職員、州議会議員などブラジル社会にしっかりと根を下ろして活躍されている方々が多い。今回公認会計士で



ブラジルといわれる大きな会計事務所を経営されている下本八郎さん（元サンパウロ州議会議員）の半生記を拝読したが、刻苦勉励に加え、しっかりとした考えと子弟に対する教育、そして日本人としての誇りと文化等を守ってこられたことが感じられる。また、今回はお会いできなかったが、単独で青森県産出リンゴの半分の量を収穫しリンゴ王と呼ばれる平上さんや、個人で何百万羽という養鶏場を営んでいる薮田さんなど、大変な成功者も多くいらっしゃる。



日系人子弟の優秀さを表す数字として、全人口の日系比率1%未満にも関わらず、最難関のサンパウロ大学医学部卒業の日系比率は21.4%という驚異的な数字を出している日系人は、ブラジル人から勤勉の象徴として見られ尊敬の対象となっている。実際、5年前に16歳の高校生時代に3週間の日程で「県人会子弟訪問研修」に来られた高橋納谷・建蔵（たかはしなや・けんぞう）マルセロ君は、帰国後サンパウロ大学の医学部に進学し、今年教授の推薦を受けハーバード大学に留学することになったということである。このような事例は、お世話をした和歌山県国際交流協会としてあるいは和歌山県人として本当に誇りに感じた次第である。



### ここでいっぶく！

ブラジル、サンパウロにある浄土宗日伯寺別院南米本部。ここは仏教の伝道と国際化の拠点として日系移民の方の心のよりどころとなっている寺院である。

平成31年1月に82歳で亡くなられたブラジル和歌山県人会の木原好規前会長もここで眠る。浄土宗南米開教区総監であり南米浄土宗別院日伯寺の佐々木良法住職から寺院等の説明をしていただいた。



## （2）ブラジル日本商工会議所



ブラジルの経済状況や日本企業との連携状況、あるいは現地法人の雇用状況、また複雑なブラジルの税制は日系企業のブラジル進出に影響を与えているか等の問題意識をもって、平田事務局長からヒヤリングを行なった。

参考まで、会員企業は、日本進出企業215社、ブラジル企業・外資系企業135社である。

ブラジル経済概要を概観すると、ブラジルのGDPは世界第9位、南米最大の経済規模。一人あたりのGDPは日本の約25%。ブラジルは関税同盟としてのメルコスール(\*)を大きく牽引している。ブラジル日本商工会議所として2018年より日本とメルコスール諸国とのEPAの早期交渉開始を働きかけているとのこと。

(\*)南アメリカ諸国域内の関税撤廃等を目的に発足した同盟。アルゼンチン、ブラジル、パラグアイ、ウルグアイが加盟

ブラジルのビジネス環境課題として複雑な税制度が挙げられる。ブラジルの税金は大きく「連邦税」「州税」「市税」に区分され、それぞれの行政機関が各種税金の課税限度、税法の一般規程を定めている。ブラジル特有の移転価格税制や零細・小企業向け簡易税務申告制度もある。現在60以上の税金の種類があり、それが27の州、5700の市で適用内容が異なるため、商工会議所としてもっと簡素化してほしいとの要望を出しているようであるが、遅々として進まない実情がある。

これら、税制や社会負担に加え、ブラジル特有の不安定な制度、すなわち、過度な労働者保護（労務問題、賃金上昇）、通貨・物価の不安定、不安定な法制度、治安情勢などが挙げられ、それに加え、GDPの20%がアングラ経済という背景がある。このアングラを表舞台に持ってくると、ブラジルも随分変わるということを平田事務局長も強調しておられたが、BRICsの筆頭国として世界経済を牽引するうえで、まだそれらが足



枷となっている。

2019年に発足したボルソナーロ政権も、その過激な発言のため南米のドナルド・トランプ大統領のように伝えられているが、政治家として30年以上の経験があり、ここ数年の政界を巻き込んだ汚職事件とは縁遠いということで支持を集めたという経緯もある。経済については、著名な経済学者のパウロ・ゲジス氏を経済大臣に置き、年金改革、税制改革、インフラ改善等、先進国に並ぶ経済規模に相応しいソフト・ハードを整えようとしているとのことである。

また、ブラジルには2億人を超える巨大な消費市場、豊かな天然資源と高い食料生産ポテンシャル、世界最大の日系人社会と優秀な人材、日伯両国双方の友好的補完関係といった、大きなポテンシャルを持っている。これからのブラジルの飛躍に目が離せない。

### (3) 国際協力機構（JICA）ブラジル事務所

約束した時間も会議が続くというたいへんお忙しい中、佐藤所長以下5名の方が対応して下さいました。

事前に訪問趣旨、質問事項、和歌山県の経済状況や本協会の取組、ブラジル日系社会との関連性などの必要事項は事前に担当の方と情報交換をしていたので、それらに関連する資料をご用意いただき、ご説明は次長の門屋様が行ってくれた。

JICAは、近年特にブラジル日系社会との連携に力を入れており、ブラジル都道府県人会連合会の副会長も務める本県県人会長の谷口さん等県人会幹部とは頻りに意見交換されているとのことであった。

ご存じの方も多いと思うが、JICAの政府開発援助





(ODA)には、「技術協力」、「有償資金協力(円借款)」、「無償資金協力」という援助ツールがある。例えば、「技術協力」は、途上国の発展の担い手となる人材を育成するために、日本の技術や技能、知識を途上国の人びとに伝えるものであり、技術者や行政官などを対象とした技術研修の実施や、専門的な技術や知識をもった専門家やボランティアの派遣、各種の開発計画の作成をサポートする開発計画調査型技術協力などがある。

ブラジルに対するJICAの援助として、円借款では「ベレン都市圏幹線バスシステム事業」、科学技術協力では「アマゾンの生物多様性保全プロジェクト」、草の根技術協力では「サンパウロ州カサパーバ市における環境教育推進事業」、ブラジル人知日派リーダーを育成する「SDGsグローバルリーダー・コース」などを実施してきたとのことである。

また、ブラジル日系社会との連携として、これまで培ったブラジル政府機関や日系社会との関係を活かし、ブラジルに進出する700社にも及ぶ日本企業及び進出を計画する企業との連携を深め、日本の優れた技術を活用し、ブラジルの開発課題と日本企業のビジネスにおける課題両方の解決に貢献できるような取り組みを進めている。

ブラジル日系社会に対しては、JICAの前身機関の時代から、5万3千人に及ぶ移住者の送出国を担い、その後の定着と安定のための支援を行ってきた。現在でも、日系社会ボランティアを100名規模で派遣し、各地日系団体のニーズに応えると共に、日系社会との関係強化や日系団体を通じたブラジル社会への貢献を推進しているとのこと。また、次世代の日系社会を担い、日伯の架け橋となり得る日系人の人材育成についても、日本での研修の実施や、民間連携事業を推進するなどの新たな取り組みを進めている。

関連して、ブラジル日系社会との連携で日系社会次世代育成研修事業や日系社会リーダー育成事業で、次世代の日伯架け橋となる人材はどんな活躍をされているか、という質問を行った。それに対して、30年前から始めている事業でつぶさに追跡調査している訳ではないが、日系社会の中核を担う人材や医療現場で活躍されている方などが出ている、とのことであった。



## 5 おわりに

覚悟を決めて決死の思いで海を渡っていった先人達。石川達三氏の「蒼氓」では45日間に及ぶブラジルへの航海とその人間模様が描かれている。それに比べれば30時間という時間は劇的に短縮されたが、それでもやはり地球の裏側は遠い。

ただ、距離的に離れば離れるほど、日本や和歌山に対する思いは“純化”され、より強くなっておられる。日本以上に日本の伝統・文化・歴史・言語を真摯に学び、大切に、それを引き継いでいく。また、それぞれの子弟には教育に力を入れ、社会進出を図っていく。明るい笑いで包み込まれているが、一言で言い表せない苦労の中で地歩を固めてこられたさまざまな思いを、私たちは受け止めていかなければならない。

## ブラジル、アルゼンチンから県人会子弟がやってきた！

ヤスミン マヤ タニグチ 16歳（女性） 日系4世



出身都市：ブラジル連邦共和国マツグロッソ ド スル州、  
カンポ グランデ市

和歌山とのつながり：曾祖父母がみなべ町などの県内出身

日本語レベル：日常会話が流暢にできる

趣 味：おりがみ、読書、大正琴、テレビやアニメ鑑賞

志望動機：和歌山は私の曾祖父母、祖父母が生まれた地で、その文化とつながることはとても大切だと感じたからです。

下山 美和 （シモヤマ ミカ） 23歳（女性） 日系2世



出身都市：アルゼンチン ブエノスアイレス市

和歌山とのつながり：父が新宮市出身

日本語レベル：日常会話が流暢にできる

趣 味：スポーツ、ダンス、映画、旅行

志望動機：和歌山は私の祖先の故郷であり、私自身の一部であるからです。  
そして私の家族のルーツについてさらに深く学び、日本語も学びたいと思っています。

### グローバルセミナー

#### 「～ブラジル・アルゼンチンから和歌山にルーツを訪ねて～」



2月2日（日）中南米海外移住者子弟受入事業で和歌山に来ているブラジル出身のヤスミン マヤ タニグチさん、アルゼンチン出身の下山美和さんの二人をゲストスピーカーとしてお迎えしました。

センターボランティアの着付けで二人とも華やかな振袖姿になり、それぞれの国を写真や映像で参加者に紹介しました。その後、二人が持ってきてくれたブラジルやアルゼンチンのチョコレート、コーヒーなどを参加者の皆様と一緒に楽しみながら交流しました。





### 「外国人実習生の受け入れについて」

— 受け入れ企業側の経験を通して —

様々な業界で人手不足の深刻化が叫ばれている中、2019年4月より改正出入国管理法が施行されました。今後日本で働く外国人労働者が益々増え、多くの企業にとってなくてはならない存在になると言われています。

2月9日（日）のセミナーでは、和歌山県で外国人実習生を受け入れている株式会社インテリックス代表取締役 木村明人氏を講師に迎え、ご経験を語っていただきました。外国人労働者の受入や人権、雇用、課題などについて参加者の皆様と一緒に考える機会となりました。



講師 木村 明人 氏

### 日中交流奨学事業イベント

ホワチャー  
花茶～彩りを味わう



中国茶は製造方法により、6種類に分類されています。6種類以外に、花などを加えたものが、ジャスミン茶や工芸茶などの「花茶」です。

令和元年12月1日（日）に開催された中国茶講座のテーマは「花茶」。中国茶高級茶芸師 津田美起子氏を講師にお迎えし、バラやボタンなどの珍しい花茶を紹介していただきました。

講師が実演で淹れた数種類の美味しいお茶を楽しんだ後、ご指導で参加者たちがオリジナル花茶～「八宝茶」作りに挑戦しました。良いものがいっぱいという意味の「八宝」の名のついたお茶は、ジュエリーボックスのようにカラフルで癒し効果が抜群！

オリジナルお茶作りを通して、中国文化に触れ、お茶に癒されるひと時となりました。



講師 津田美起子 氏

## 和歌山県内の国際交流活動

このコーナーでは和歌山県内で国際交流活動を行っている国際交流団体、グループ、そして行政の活動を紹介していきます。



### 和歌山県庁国際課だより

#### ◆和歌山県人会世界大会【11月24日～27日】～海を渡った先人達～ 海外・国外で活躍する和歌山県人がここに集う

和歌山県は、全国で6番目に多い約4万人もの移住者を輩出した移民県であることをご存じですか？海外に移住された方々は、移住先において和歌山県人会を組織し、文化や伝統を次世代へ継承する様々な活動を続けられてきました。また、国内各地でも和歌山県人会が組織され、故郷を離れた和歌山県人相互の交流が図られています。和歌山県と各県人会はこれまで、創立周年記念式典や子弟受入事業等の機会を通じて、様々な交流を続けてきました。

11月24日（日）海外県人会から約280名、国内県人会から約180名がふるさと和歌山に里帰りし、初の「和歌山県人会世界大会」が盛大に行われました。

式典では、仁坂知事の挨拶のあと、各県人会の紹介、顕彰盾の授与、全県人会を代表してブラジル和歌山県人会長の挨拶、大会宣言、合気道の紹介と演武、和歌山県の移民史のビデオ上映などが行われ、和歌山県民、海外・国内県人会、双方にとっても意義のある式典となりました。

また式典後半では、宮沢和史さん（元『THE BOOM』）、大城クラウディアさん（日系2世の歌手でアルゼンチン和歌山県人会員）、和歌山児童合唱団、星林高等学校吹奏楽部が出演した記念コンサートが開催され、県内の小学生が心を込めてメッセージや絵を描いたマラカスを手に県人会員が壇上へ上がり、会場が一体となって大いに盛り上がりました。

25日からは海外県人会員は紀北、紀中、紀南の3コースに分かれて2泊3日で県内をまわり、各地で県民の皆様と様々な交流をしました。参加者からは『祖父母から聞いていた和歌山がこんなに素晴らしいところだと知ることができ誇りに思う』、『皆さんのおもてなしに感動した』という感想が寄せられました。

今大会では、移民の歴史を共有し理解を深め、国内外の県人会員が故郷への誇りと親しみを新たにしました。今後県人会世界大会が定期的に行われ、和歌山県にゆかりのある方々の絆がより一層強固なものとなることが期待されています。





# ! Hi Hai Hola こんにちは!



## 和歌山県（わかやまけん）の ことを しりましょう!

このコーナーでは和歌山県に住（す）んでいる外国人（がいこくじん）のかたに読（よ）んでいただくために「やさしい日本語（にほんご）」で書（か）いています。和歌山県のことをもっとしてください。

★日本（にほん）に 来（き）たら・・・  
さいしょに 日本語 を 勉強（べんきょう）しましょう。

★金曜日（きんようび）：おはようクラス（10：30～12：00）（N5からN3）

\*勉強するためにお金（かね）はいりません。

★土曜日（どようび）：わがっこクラス（13：00～）

\*こどもの にほんご（学校（がっこう）でつかうことば）

\*ひらがな・カタカナ・漢字（かんじ）

\*学校の勉強



★日曜日（にちようび）：もっとにほんごクラス（10：30～12：00）（N4～N2）

\*会話（かいわ）が じょうずに なりたい 人（ひと）

\*言葉（ことば）を おぼえたい人

\*文法（ぶんぽう）を 勉強したい人

\*日本文化（にほんぶんか）を しりたい人

\*30人～のクラス

：いっしょに にほんご（14：00～）（N5～N1）

\*初級（しょきゅう）・中級（ちゅうきゅう）・上級（じょうきゅう）クラス

\*2人からのクラス

日本語の クラスについて たくさん しりたい人は

和歌山県国際交流センター（わかやまけんこくさいこうりゅうセンター）へ。

TEL：073-435-5240 E-mail wa-world@wixas.or.jp

## ★新型（しんがた）コロナウイルス（COVID-19）の 病気（びょうき）に ついて

2019年（ねん）12月（がつ）に 中国（ちゅうごく）の 湖北省（こほくしょう）で みつかった 新（あたらしい）コロナウイルスが 原因（げんいん）となる 病気（びょうき）です。

ねつや せきが できる 病気です。肺炎（はいえん）になる 人（ひと）も います。せきやくしゃみで 人へうつります。 （自治体国際化協会（クレア）ポータルサイトより抜粋）

くわしくは、多言語化（たげんごか）された情報（じょうほう）をクレア「多文化共生（たぶんかきょうせい）ポータルサイト」みてください。

●多文化共生ポータルサイト

<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/info/contents/114517.php>



# 応援団通信



<http://www.wakajicavo.com/>

● JICA 海外協力隊の令和元年度第2次隊が和歌山県庁を表敬訪問しました。



○令和元年 11 月 28 日 (木)

和歌山県庁を表敬訪問したのは、シニアボランティアとしてヨルダンに非破壊検査で派遣される前芝公男さん（前列向かって左）、そしてコスタリカの国立職業訓練センター健康・文化・工芸家で手工芸の職種で活動し、10月に帰国した小池真知子さん（前列向かって右）です。

前芝さんはヨルダンへは2回目の派遣となります。今回は高等教育省のヨルダン大学（産学連携学部）に所属し、学生（主に工業技術学科）を対象に非破壊検査の基礎を指導します。

小池さんはコスタリカで、リサイクルの概念で芸術品からアクセサリなどの服飾に関する物を制作してきました。

\* JICA 海外協力隊3次隊は下記4名が派遣されます。（コロナウィルスのため出発時等は未定）

氏 名	職種	派遣国	種類
小畑 美沙希さん	看護師	ボリビア	海外協力隊
森下 元哉さん	コミュニティ開発	ウガンダ	海外協力隊
松下 精二さん	廃棄物処理	マーシャル	海外協力隊
神田 紘暉さん	水産開発	ソロモン	海外協力隊

● グローバル人材セミナー in 和歌山  
 一県内企業と JICA 海外協力隊OV を繋ぐー を開催

○令和元年 12 月 19 日 (木)

和歌山県出身の帰国隊員は延べ327名（2019年12月31日現在）です。多くの帰国隊員は和歌山県を離れて他府県や海外で働いているのが現状です。わかやま JICA ボランティア 応援団は直近で帰国した隊員を和歌山で就職してもらうために、JICA 関西の協力のもと、「グローバル人材セミナー in 和歌山」を開催しました。いつも当応援団を通して協力隊を支援くださっている会員や協賛団体で、特に JICA 海外協力隊OV の雇用を希望している企業または関心のある企業にご参加いただきました。4名の帰国隊員から派遣国や自分の活動、そして自己アピールをしていただき、企業の方から JICA 海外協力隊OV への関心が高くなったと同時に、1名の方の就職が決まりました。当応援団は、これからの多文化共生社会を考慮し、JICA 海外協力隊を経験したグローバル人材ができるだけ多く和歌山に滞在してもらえるように活動していきます。



## ●国際理解授業を実施！

わかやまJICAボランティア応援団はJICA関西とともに依頼を受けた、和歌山県内の小学校、高等学校を訪問し、国際理解のための出前授業を実施しました。

### ○令和元年12月6日（金）



訪問した学校は有田川町立藤波小学校。講師は和坂健志帰国隊員（パナマ共和国・環境教育）。和坂帰国隊員は最初、スペイン語で自己紹介し、その後、児童生徒から「ジャイアン」とニックネームをつけてもらい、クイズ形式でパナマの国や歴史の話をしました。

そしてパナマのごみの状況など話した後、捨てられていた空き缶を6トン集めてお金に換え、小学校にクーラーなどをつけたことなど自分のボランティア活動について話しました。また、パナマでのあいさつの仕方やスペイン語で「こんにちは」や「ありがとう」を児童生徒に教え、大いに盛り上がっていました。

子どもたちは後日、感想文を当応援団に送ってきてくれました。自分たちにとっても身近な空き缶を収集し、それを学校に役立てたことが印象に残っていたようです。

そして自分たちの知らない国パナマの話をしてくれた和坂帰国隊員にとっても感謝していました。



### ○令和2年1月30日（木）



紀美野町にある「りら創造芸術高等学校」を訪問しました。今回の講師はセネガルで、コミュニティ開発で活動した鍋内郷子帰国隊員。学生たちに最初にセネガルの甘いコーヒーを試飲してもらいました。

その後、アフリカの歴史や植民地の話から始まり、セネガルの生活文化の話をしました。

言葉は、ウォロフ語で鍋内帰国隊員は「ビーンツウ」と呼ばれていたこと、セネガルの人は人が集まるとすぐダンスをすることなど、明るく、温かいセネガル人は、学生たちがイメージしていたセネガルとは全く違っていました。学生からは鍋内帰国隊員のエネルギー溢れる話を聞き、「一度は必ず海外という歴史や文化も生活も違う地に行って広い視野を持ち、今の狭い価値観から抜け出したい」という感想をいただきました。

わかやまJICAボランティア応援団は会員のみなさまのご支援により運営しております。

（株）南北様、（株）湊組様、（株）浅川組様、瀬川医院様、十一番丁てらしたクリニック様  
（株）メイスンキタニ様、（株）松源様、大揚興業（株）様、中和印刷紙器（株）様、  
太洋工業（株）様、（株）オークワ様、（株）中村正佛堂様、（株）小松様、紀南電設（株）様、  
大洋化学（株）様、（株）山本進重郎商店様、築野食品工業（株）様、中田食品（株）様、  
（株）小森組様、ユタカ交通（株）様、築野開発（株）様、（株）紀陽銀行様、  
（株）インテリックス様、あすか綜合法律事務所 豊田泰史様、山中盛義様、山下直也様、  
岸本周平様、長坂隆司様、世耕弘成様、門博文様、築野元則様 （順不同）



WIXASコーナー



WIXAS  
SINCE 1990

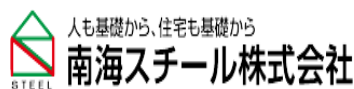
Wakayama International Exchange Association

## 賛助会員のご紹介

皆様のご支援、ご協力ありがとうございます！

### 法人会員

(株) インテリックス様、(株) サンライズ様、(株) 南北様、(株) 春風会様、  
協和プレス工業(株)様、榎谷精工(株)様、南海スチール(株)様



### 団体会員

わかやま南北アメリカ協会様、和歌山県日韓親善協会様、i 愛句会様、  
ガールスカウト和歌山県連盟様、和歌山にほんごの会 NAGOMI 様 (順不同)

～ WIXAS 賛助会員数 ～ (2020年3月1日現在)

個人会員数 23名 法人会員数 7法人 団体会員数 5団体

◎公益財団法人和歌山県国際交流協会(WIXAS)は **賛助会員**を募集しています。

和歌山県内の各分野での国際交流活動、国際相互理解及び国際協力を促進するとともに、在住外国人への支援を推進しています。ことば、民族、国境を越えて誰にでも開かれた地域社会づくりを図り、ひいては国際社会の平和と発展に寄与することを目的に活動しています。

ぜひ当協会の活動にご賛同ください。

≪賛助会員≫会費 個人 3,000円/年、団体 10,000円/年、  
法人 30,000円/年

★特典★：イベントのご案内/情報誌の配布など

公益財団法人和歌山県国際交流協会

〒640-8319 和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 9F

TEL: 073-423-5717 FAX: 073-435-5243

URL: <http://www.wixas.or.jp>



和歌山県国際交流センター

〒640-8319

和歌山市手平 2-1-2 和歌山ビッグ愛 8F

TEL: 073-435-5240 FAX: 073-435-5243

開館時間:

水曜日・祝日を除く 毎日 10:00~18:30

URL: <http://www.wak-kokusai.jp>